ウイルス担当（平成18年度）

◇ 病原体定点調査（感染症発生動向調査事業）

(1) インフルエンザウイルス

平成18年11月から平成19年5月までにAH1N1型ウイルス13株、AH3N2型ウイルス62株、B型ウイルス58株合計133株のウイルスが分離または遺伝子が検出された。このうちAH1N1型ウイルスについては平成19年1月19日（第3週）の中区定点検体から1株分離され、5月まで散発的に分離・検出された。一方、AH3N2型ウイルスについては平成18年12月7日（第49週）の瀬谷区定点検体から1株分離され、年明け後は2月第7週をピークとして5月第22週まで分離された。他方、B型ウイルスは平成19年1月9日（第2週）の青葉区と磯子区定点検体から4件B型ウイルスの遺伝子が検出された。その後、1月29日（第5週）の戸塚区定点検体から1株分離され、第9週をピークとして4月第16週まで分離された。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH1N1型ウイルスの多くはワクチン株であるA/New Caledonia/20/99に低い反応性を示した。また、AH3N2型ウイルスはワクチン株であるA/広島/52/2005類似株であった。一方、B型ウイルスはワクチン株である Victoria系統のB/Malaysia/2506/2004に類似したウイルスであった。

(2) アデノウイルス

一年を通じて24株分離された。眼科定点の流行性角結膜炎患者由来5検体のうち1検体から8型、2検体から37型が分離された。

(3) エンテロウイルス群（ポリオ、コクサッキーA・B群、エコー、エンテロウイルス71）

夏季を中心に、14種64株が分離された。ポリオウイルスの分離時期は春秋のワクチン接種時期と一致していた。手足口病患者由来の12検体のうち9検体からコクサッキーウイルスA16型、2検体からエンテロウイルス71型が分離された。ヘルパンギーナ患者由来の14検体のうち10検体からコクサッキーウイルスA4型が検出され、このうち1検体からはアデノウイルス1型が分離された。このほか、それぞれ1検体からコクサッキーウイルスA2型、A10型、ヒトヘルペスウイルス6型が検出された。なお、全国的な傾向としては、手足口病患者からはエンテロウイルス71型、ヘルパンギーナ患者からはコクサッキーウイルスA4型が優勢に検出された。

(4) RSウイルス

主に咽頭炎、気管支炎患者由来の検体から54株検出された。冬季の小児のかぜの主要な病因ウイルスの一つとしてよく知られており、10月以降に検出数が増加した。さらに、6、7月にも散発例がみられた。

◇ ウイルス性食中毒等の検査（平成18年度）

非細菌性の有症苦情を含む食中毒等の事例（感染症の事例も含む）に対する検査は、昭和58年度より原因究明のための調査・研究として実施している。平成18年度の検査数は、248事例1,779件（患者1,123件、従業員656件、食品51件）で、昨年度の事例数（123事例）、検査数(1,222件)ともに大幅な増加であった。陰性確認のために平成16年より調理従業員に実施している有料依頼検査は，今年度については依頼がなかった。

全248事例中の176事例（71.0%）はノロウイルス陽性、2事例はA群ロタウイルス陽性，1事例はサポウイルス陽性であった。今年度のノロウイルスの遺伝子型は、G1型が2事例だけで、残りの174事例は全

てG2型であった。昨年以上にG2型が主流ではあることには変わりはなく、全国的にも老人施設等の集団発生で主流のG2-4型は，市内で確認できた事例数の約9割（73/82事例）を占めていた。また、平成18年4・5月にA群ロタウイルス感染症2事例が，グループホームと保育園で発生した。なお、6月に幼稚園で発生したサポウルスによる感染症の1事例は、横浜市内で初めて確認できた集団発生事例であった。

今年度のノロウイルス感染症による集団発生は87事例で、昨年度（19事例）の約4.5倍と大幅に増加した。その事例数の内訳は、老人施設62、保育園・幼稚園8、小学校1、養護施設3、病院11、その他2、の計87事例で、それらの遺伝子型は全てG2型であった。また、老人施設での発生が昨年度の4事例から大幅に増加した。

また、平成11年度より市内市販品の生食用カキにおけるノロウイルスの汚染状況調査として、収去品の検査を実施している。本年度は本場、南部の両市場検査所でカキ中腸腺からのウイルスRNAの抽出、cDNAの合成までを行い、当所でリアルタイムPCR（ABI7700）によるノロウイルス遺伝子の定量検査を実施した。その検査結果は、58検体（パック）中13検体が陽性であった。

◇ 肝炎ウイルス検査（平成18年度）

(1) B型肝炎ウイルス

平成18年度における検査件数は345件であった。昨年度まで実施していた横浜市大附属病院（福浦）の医療従事者の定期検診は、病院独自で検査を実施することに伴い今年度から廃止となった。

各区福祉保健センターからの依頼検査の総数は276件であった。

自主的検査としては、横浜市立大学病院口腔外科を通じて、神奈川県内の歯科医師会の歯科医療従事者へのHBワクチン接種のための検査を69件行った。

(2) C型肝炎ウイルス

平成14年度に厚生労働省老健局老人保健課より「肝炎ウイルス検診等実施要領」が示され、本市でも平成14年度から各区福祉保健センターで実施されている基本健康診査においてC型及びB型肝炎ウイルス検査を導入している。方法は、節目検診と称して、満40、45、50、55、60歳の受診者を対象とし、5歳毎の年齢の時に1回限り検査を受診できるシステムで、検査を当所が担当している。本年度は5年事業の5年目で、検査総数は2,144件で、前年度（2,846件）より減少した。その内、C型肝炎ウイルス陽性者は26名（1.2%）、B型肝炎ウイルス陽性者は19名（0.9%）であった。

なお、平成14年度より行っている各区保健福祉センターにおける一般外来での有料扱い（上記以外の対象者）の検査総数は275件であった。その内、C型肝炎ウイルス陽性者は18名（6.5%）であった。

これら受診者数の減少は、平成17年度からの福祉保健センターにおけるウイルス性肝炎以外の有料依頼検査受付の廃止に伴う影響と考えられる。

◇ HIV検査（平成18年度）

HIV無料匿名検査は、各福祉保健センターで実施している一般依頼検査、横浜AIDS市民活動センターでの夜間検査（18:00～19:30）、結核予防会中央相談所での土曜検査（14:00～18:00）の3つの受付窓口がある。それらから依頼されたHIVのスクリーニング検査は、昭和61年度から衛生研究所で検査を実施している。また、17年度から結核予防会中央相談所の土曜検査で即日検査を開始し、従来からの通常検査と即日検査が選択できるようになった。18年度の取扱件数は総数4,592件で、その内訳は、一般依頼検査：1,552件、夜間検査: 848件、土曜検査2,192件（通常検査：397件、即日検査：1,795件）であった。その内の陽性18件（前年度10件）の内訳は、一般依頼検査：6件、夜間検査:6件、土曜検

査:6件(通常検査:0件、即日検査:6件)であった。

また、市民病院からの依頼であるエイズ患者のフォローアップ検査は、抗HIV薬剤に対する耐性株の出現をみることを主眼にしており、患者への治療方針の補助になるものとして平成5年度から実施している。18年度の検査件数は、患者数47名による57件であり、その内新患は40名であった。